

## Agilent マルチモード注入口クリーニングガイド

Table 1 必要部品

部品番号	品名	必要数または量
G3510-80821	研磨ブラシ	1
*部品番号なし	アセトンまたはメタノール	25ml
*部品番号なし	100ml ビーカー	1

上記、\*部品番号なしのものは、弊社での販売はございませんので、別途ご用意をお願いいたします。

## クリーニング手順

以下に、マルチモード注入口（MMI）のクリーニング手順を記します。クリーニングの頻度は、使用する注入モード、取り付けるライナ、サンプルの清浄度など、様々な要因によって、週に1回クリーニングが必要な場合もあれば、年に1回で問題ない場合もあります。

ライナを交換するときには、常に、注入口の底部の目視検査から開始します。

食品エキス、固形廃棄物など、汚れたサンプルを注入する場合、注入口の底部に物質の小さい輪ができます。最初のクリーニングスケジュールを、汚れたサンプルの場合2週間に1回、清浄なサンプルの場合2ヶ月に1回に設定し、必要に応じて調整してください。

1. GC オープン、MMI を冷却し、安全のために GC 電源を OFF とします。
2. MMI ターントップアセンブリを開けて、ライナを取り外します。また、GC オープン内にある MMI 底部からカラムを取り外します。
3. 溶媒で研磨ブラシを湿らせ、注入口内側のボトムシールを繰り返し拭いて、MMI からはがれた物質を取り除きます。残留物を取り除くために、ブラシと清浄な溶媒でリンスします。
4. 適度な圧力で、ブラシを MMI の底まで入れます。ブラシが底に触れた状態で、ブラシをねじりながら前後に動かします。（約 20 回で十分です。）

## Note

研磨ブラシは、複数回利用することが出来ます。

5. ブラシと清浄な溶媒でリンスします。使用量と最高使用温度によっては、注入口の下部に酸化状態（薄茶色）が見られる場合があります。これは正常な状態で、注入口のパフォーマンスには影響しません。必要に応じてステップ 3~5 を繰り返し、残留物を取り除きます。

6. MMI の 底部から排出される使用済み溶媒の溶媒受けとして、ビーカーまたは他の容器を注入口のコラム開口部に置きます。清浄な溶媒を使用して、注入口内部を複数回すすぎます。また、その時使用する溶媒量は、注入口容積の半分以上に満たさないようにします。ビーカーまたは他の容器にたまった使用済の溶媒は、適切なルールに従って処分してください。
7. 注入口ライナとコラムを、再度、取り付ける前に MMI をよく乾燥させてください。

本書は、Agilent Multi Mode Inlet Cleaning Guide（資料番号：G3510-90820）を日本語化し、編集したものです。本文書に誤りが発見された場合、また、本文書の使用により、付随的または間接的に生じる損害について一切免責とさせていただきます。

本資料に記載の情報、説明、製品仕様等は予告なしに変更されることがあります。著作権法で許可されている場合を除き、書面による事前の許可なく、本ガイドをいかなる方法（電子保存など）によっても、複製、翻案、翻訳することは禁じられています。

